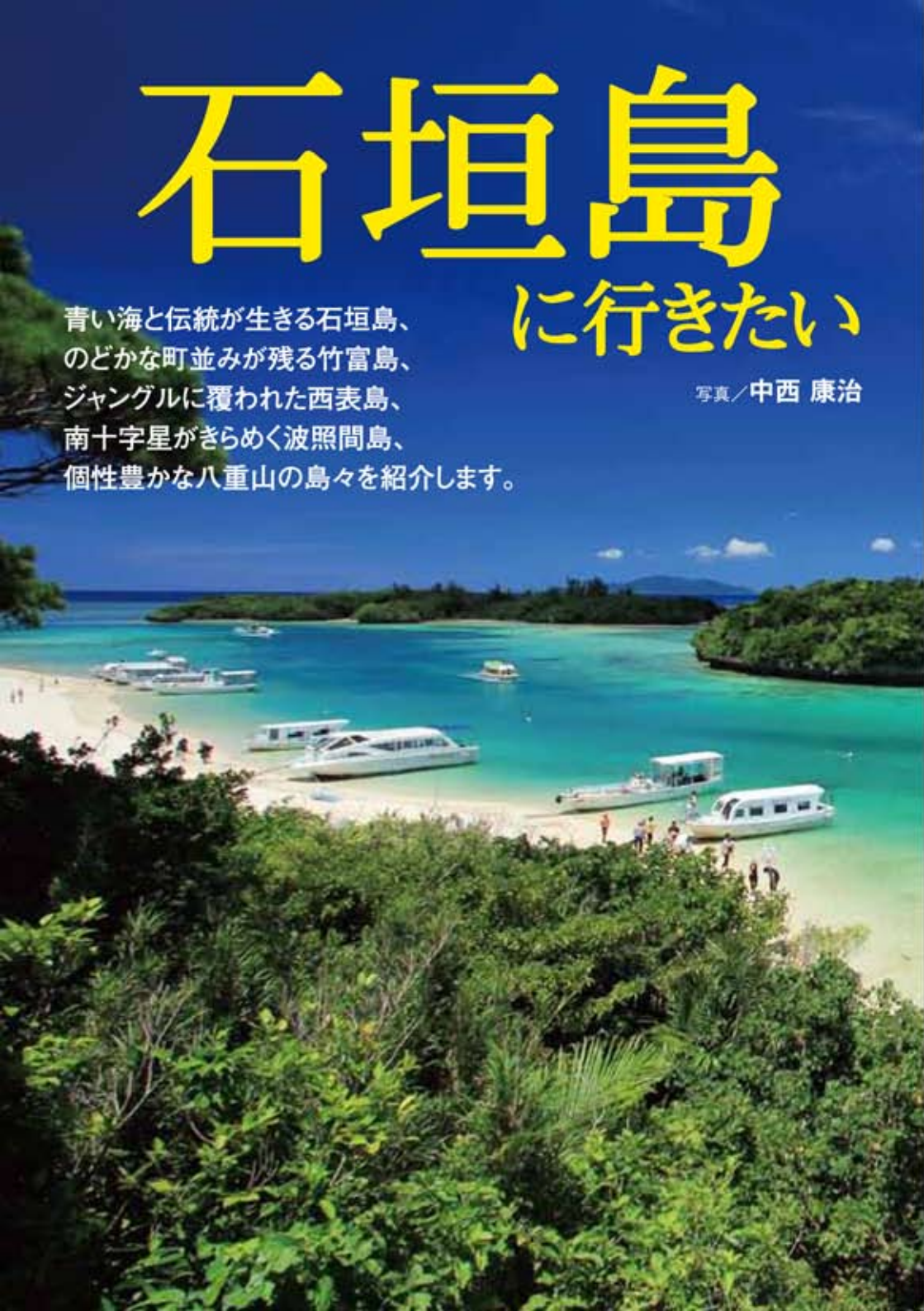


石垣島




に行きたい

写真 / 中西 康治

青い海と伝統が生きる石垣島、
のどかな町並みが残る竹富島、
ジャングルに覆われた西表島、
南十字星がきらめく波照間島、
個性豊かな八重山の島々を紹介します。



CONTENTS

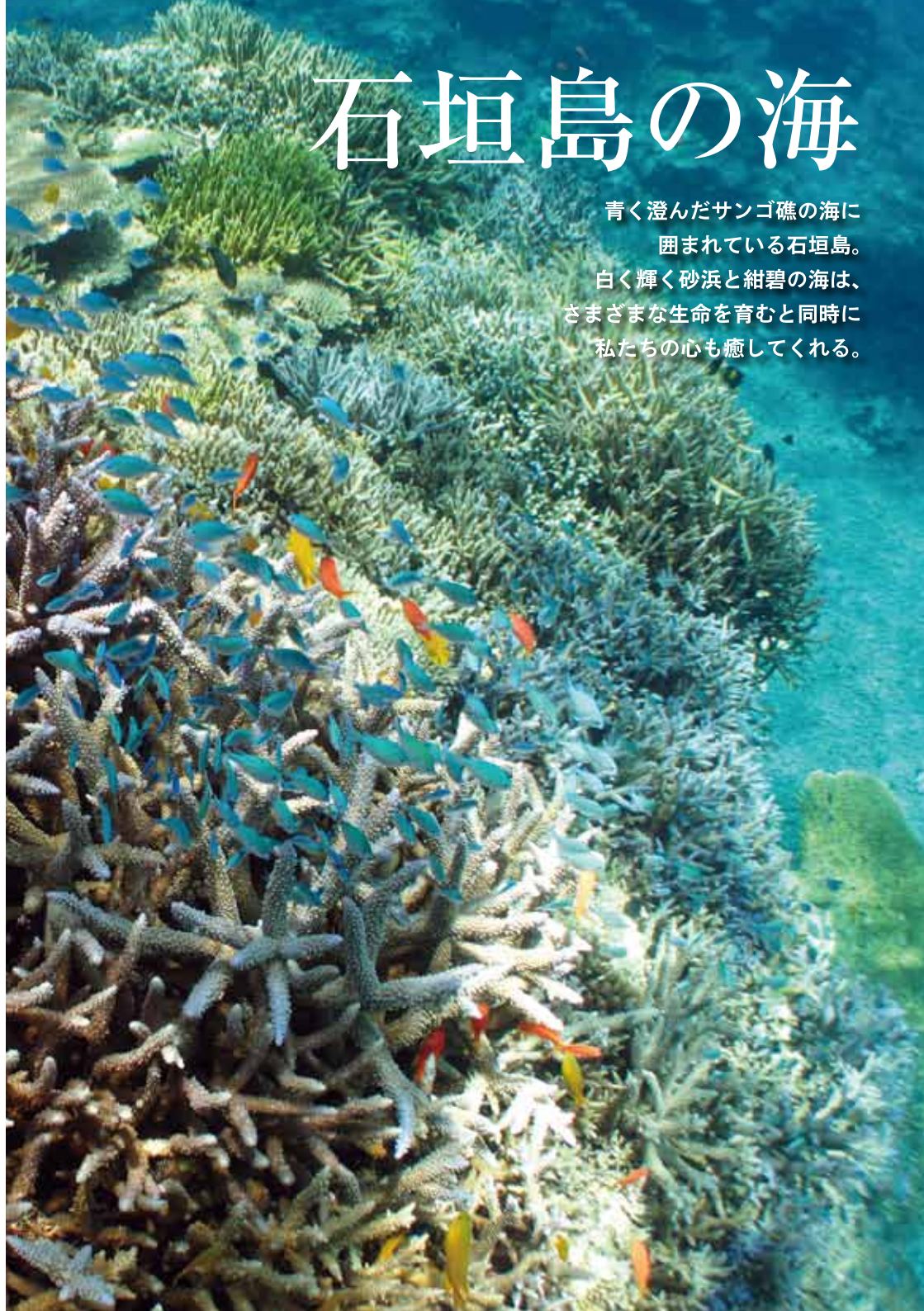
石垣島の海	02	06 石西礁湖	53
八重山諸島を知ろう。	10	Column 知る人ぞ知る 穴場ビーチ	54
石垣島を巡る	16	Column 島の歴史を物語る 貴重な史跡	56
 絶景ポイント		きいやま商店インタビュー	58
01 川平湾	20	 竹富島を巡る	
02 平久保崎灯台	22	01 重要伝統的建造物群保存地区	64
03 玉取崎展望台	24	02 コンドイビーチ	66
04 御神崎灯台	26	03 カイジ浜	68
05 観音崎	28	04 西栈橋	69
06 バンナ公園展望台	29	Column 八重山諸島の生物 後編	70
07 明石パラグライダー離陸地	30	 西表島を巡る	
Column ドライブ途中の絶景	32	01 仲間川	74
 豊かな自然		02 浦内川	76
01 名蔵アンバル	34	03 ビナイサーラの滝	79
02 於茂登岳	36	04 イダの浜	80
03 荒川の滝	37	05 南風見田の浜	81
04 米原のヤエヤマヤシ群落	38	06 星砂の浜	82
05 野底マーペー	40	07 トウドウマリの浜	83
06 吹通川	41	08 パラス島	84
07 宮良川	42	09 由布島	85
Column 八重山諸島の生物 前編	44	 波照間島を巡る	
 海とビーチ		01 ニシ浜	88
01 米原ビーチ	46	02 高那崎	90
02 底地ビーチ	48	03 波照間島星空観測タワー	91
03 フサキビーチ	49	石垣島の美しい星空	92
04 白保の海	50	「石垣島特産品詰め隊」について	94
05 マエザトビーチ	52		

米原ビーチの沖合いにあるダイビングポイント「米原ダブルリーフ」。立派なサンゴ礁に、色とりどりの魚たちがたわむれる。(写真提供=オーシャンズ石垣島)

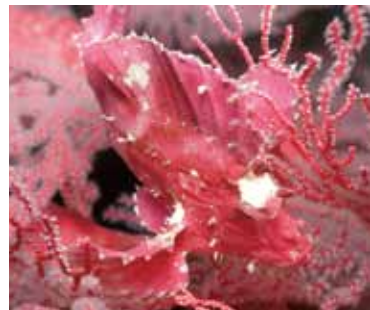


石垣島の海

青く澄んだサンゴ礁の海に
囲まれている石垣島。
白く輝く砂浜と紺碧の海は、
さまざまな生命を育むと同時に
私たちの心も癒してくれる。



「米原ダブルリーフ」で見られるキンギョハナダイの群れ。金魚に似ていることからこの名が付けられた。(写真提供=オーシャンズ石垣島)



上/すみかのイソギンチャクに隠れるカクレクマノミ。イソギンチャクは毒を持つが、クマノミ類は毒から身を守る耐性があるため共生できる。下右/脱皮をすることで知られるハダカハオコゼ。海草に擬態してじっとしているので、見つけるのは難しい。下中/鮮やかな体色とひょうきんな顔で、ダイバーに人気のギンガハゼ。下左/水玉模様が目玉を引くミゾレフグ。威嚇する時には、写真のように倍以上も体を膨らませる。(このページの写真提供=オーシャンズ石垣島)

人々を魅了し続ける
石垣島の「イノー」

北は東シナ海に、南は太平洋に面している石垣島。周囲には遠浅で穏やかな海が広がっており、海岸に沿うようにしてサンゴ礁が発達している。このようにサンゴ礁に囲まれた浅瀬の海のことを、沖縄では「イノー」と呼び、海洋生物の宝庫として昔から大切にしてきた。石垣島にはこのイノーがいくつもあり、島内外の人々を魅了し続けている。石垣島近海の最大の魅力といえは、やはりほかにはない透明度の高さだろう。どんなに状況が悪くても一〇〜一五メートルはあり、場所によっては最大四〇メートルもの透明度を誇る。これらの海は、場所によってそれぞれ異なる特徴を持ち、



真っ白な灯台が印象的な
断崖絶壁の御神崎



石垣島を代表する景勝地
川平湾



玉取崎展望台は
絶好の撮影スポット



エメラルドグリーンのお海を一望できる
バナナ公園展望台



石垣港離島ターミナル内の
「具志堅用高ブロンズ像」



石垣島ビーチ人気No.1の
米原ビーチ



ラムサール条約に
登録されている名蔵アンパル



日本最大のヤエヤマヤシ群落



日本一早い海潮まで有名な
底地ビーチ



船から眺める石西礁湖



石垣牛を放牧している
島北部の牧場



どこまで果敢もなく続く
サトウキビ畑の小道

石垣島 MAP

【絶景ポイント】

- 01 川平湾 →P.20
- 02 平久保崎灯台 →P.22
- 03 玉取崎展望台 →P.24
- 04 御神崎灯台 →P.26
- 05 観音崎 →P.28
- 06 バナナ公園展望台 →P.29
- 07 明石パラグライダー離陸地 →P.30

【豊かな自然】

- 01 名蔵アンパル →P.34
- 02 於茂登岳 →P.36
- 03 荒川の滝 →P.37
- 04 米原のヤエヤマヤシ群落 →P.38
- 05 野底マーベール →P.40
- 06 吹通川 →P.41
- 07 宮良川 →P.42

【海とビーチ】

- 01 米原ビーチ →P.46
- 02 底地ビーチ →P.48
- 03 フサキビーチ →P.49
- 04 白保の海 →P.50
- 05 マエザトビーチ →P.52
- 06 石西礁湖 →P.53

川平公園の展望所から眺めるエメラルドグリーンの川平湾。



青い海、白い砂浜、深緑の森……。自然豊かな石垣島ならではの、すばらしい絶景を見てみよう。

石垣島を巡る 絶景ポイント

石垣島を巡る
絶景ポイント



01

芸術家・岡本太郎が絶賛した島一番の絶景スポット
川平湾
Kabira Bay

芸術家・岡本太郎が絶賛した島一番の絶景スポット



Access

石垣市川平
空港から県道79
号線を通して車
で30~40分。

上/涼しげな木陰から海を眺めれば、南国ならではの穏やかなひとときに癒される。下右/夏には観光用のグラスボートやダイビング船でにぎわう。下左/真っ白な砂浜と湾内の小島。

石垣島随一の景勝地として知られる川平湾。その美しさは、かつて芸術家の岡本太郎が「いかなる画人のいかなる詩情を持ってしてもその表現は困難」と賞賛したほど。一九九七年には、於茂登岳と共に「川平湾及び於茂登岳」として、国の名勝に指定された。湾内には小さな島々が点在しているほか、遠くには平久保の海岸や於茂登岳も望め、独特の景観を生み出している。最大の魅力は、エメラルドグリーンの海。太陽光や潮の干満によって水面の色を変え、多彩な表情を見せてくれる。また、海中の熱帯魚やサンゴは、船底が透明になっているグラスボートから間近に観察できる。なお、川平湾は潮流が激しく、遊泳が禁止されているので注意が必要だ。



上／河口付近に最も近い支流域。兩岸にはうっそうと生い茂るヒルギ林が続く。下／名蔵アンバルから少し離れた海側のエリアにも、小規模のマングローブ林が点在している。



石垣島に降る大量の雨は、やがて清らかな川となる。その川が、多雨林や湿地帯を生み、貴重な動植物を育んでいる。石垣島を巡る 豊かな自然



石垣島を巡る
豊かな自然
01

ラムサール条約に登録された動植物の宝庫
名蔵アンバル
Nagura Ambaru



Access

石垣市名蔵
空港から県道211
号線を川平方面へ
車で20～30分。

上／満潮の名蔵アンバルを赤く染める朝焼け。下右／潮が引いて水位が下がり、根があらわになったヒルギ。下左／支流域の奥に生い茂るヤエヤマヒルギ。タコ足状に伸びた気根(きこん)により、満水時でも呼吸ができる。

名蔵アンバルとは、石垣島西部の名蔵川河口周辺に広がる、干潟やマングローブ林を中心とした一帯のこと。日本のマングローブ林を代表する存在であり、オヒルギやヤエヤマヒルギなど計六種のヒルギが自生している。

ここは、古くから地元の人々に親しまれてきた場所で、名蔵アンバルに生息するカニを擬人化した「アンバルヌミダガーマユンタ」という民謡が歌い継がれている。この民謡にもあるように、潮が引いた干潟にはカニをはじめさまざまな動物が顔を出し、そのなかには希少種も少なくない。加えて、貴重な鳥の飛来地や生息地にもなっていることから、二〇〇三年には国の鳥獣保護区に、二〇〇五年にはラムサール条約に登録された。

竹富島のコンドイビーチ。真っ白な砂浜とエメラルドグリーンの美しい海が広がる。(P.66)

石垣島に行きたい

2014年10月10日 第1刷発行

発行元	株式会社ファミマ・ドット・コム 〒170-6012 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 12F	編集・制作	株式会社エディング 〒162-0811 東京都新宿区水道町2-14 柴木ビル2F
発行人	市川 透(株式会社ファミマ・ドット・コム)	編集	小出彩奈・多田あゆみ
コーディネート	葛西弘子(シエルモンテ株式会社)	デザイン	多田あゆみ・小出彩奈
企画・原案	吉岡琢也(株式会社ファミマ・ドット・コム)	写真	中西康治 オーシャンズ石垣島 西表島パラダイスアドベンチャークラブ 環境省西表野生生物保護センター photolibrary
編集・協力	きいやま商店 林田建司 石垣島特産品詰め隊	印刷所	株式会社ツーンネット

【この本に関するお問い合わせ先】

株式会社ファミマ・ドット・コム
TEL.03-5958-3817
〒170-6012 東京都豊島区東池袋3-1-1
サンシャイン60 12F『石垣島に行きたい』係

■株式会社ファミマ・ドット・コム情報は
右記をご覧ください → <http://www.famima.com/>
<http://www.pub-famima.com/>

©famima.com 2014 Printed in Japan

本書の内容、写真などの転載、複製、複写(コピー)、翻訳を禁じます。
本書を購入いただいたお客様ご本人あるいは第三者に依頼して、デジタル化することは、
個人や家庭内の利用でも著作権法により認められておりません。